

青丘文庫研究会月報 No.212

2007年4月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
 在日朝鮮人運動史研究会関西部会(代表・飛田雄一)
 朝鮮近現代史研究会(代表・水野直樹)
 郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料3000円
 他に、青丘文庫に寄付する図書の購入費として2000円/年をお願いします。

済州島に通いつづけて - 生きられる歴史に出会う 伊地知紀子(愛媛大学)

桜の季節がやってきた。毎年この時期になると在日杏源里親睦会から、大阪城公園でのお花見のお知らせをいただく。ありがたいことである。杏源里は、私が13年間通いつづけている済州島の村だ。花見には、同じ村出身といえども在日歴の異なるさまざまな人びとが集まり、互いの近況や家族親戚の様子、世間話に花を咲かせる。大阪城公園でのお花見でお話ししたサムチュン(済州島では村のおじさん・おばさんをこう呼ぶ)と、済州島の村で再会することもある。解放後62年を経て生活の本拠が日本になっていても、冠婚葬祭のために、畑や墓の管理や整理の必要から、あるいは親しんだ風景や馴染みの顔を思い浮かべて済州島に向かう人たちがいる。こうした人びとの思いとは別に、植民地期に済州島で生まれ育った日本人のおじいさん・おばあさんから折にふれて当時の話を伺うなかにも、済州島への思いは表れるが、それについてはまた稿を改めたい。



済州島から日本へ来る人びとの流れも続いている。村に通いはじめた頃は、「閑空を作った」というお兄さんや鶴橋の食堂で働いたお姉さんの話を聞いたものだ。しかし、最近は、村の人びとの高齢化も進み日本での働き口も減り円安もあり、日本の都市圏で働いた話はあまり聞かなくなってきた。そんななか、済州島ならではという姿で働いている人びとの流れが続いている。海女である。済州島ではチャムスという。

最近、済州島と関西の友人たちとともに、日韓の海域生活者としての海女について共同研究を始める機会に恵まれた。日韓の海女に関わる地域に出かけ人びとに会う。昨年は、40年ほどまえから済州島出身の人が海女に携わる近畿圏の漁村に出かけた。坂の上から見える女性の歩き姿は紛れもなく済州島の人だ、そう確信して降りて行き声をかけたらやっぱりそうだ。彼女が仲間4人と住む一軒家に連れていってもらう。「娘を一人もらってきたよ?」と彼女はいいながら家に入っていた。済州島の言葉を話す人間は懐かしいと海女たちは盛り上がりてくれる。私が済州島に通っている話をするなかで、杏源里の他に通っているもう一つの村の名前を挙げた。すると、海女のなかで一番若い女性は、私がその村でお世話になっているお兄さんと中学校の同級生であるという。場の雰囲気はより和み話はさらに盛り上がった。その海では済州島の人人が好んで食するチョンガク(日本ではミル<海松>と呼ばれ昔は食されていた)が少し採れるのだが、採れたチョンガクは済州島の人びとが多く住む生野区へも運ばれる。この地域で済州島の海女が潜り続ける背景には、日朝の歴史に加え日本の漁村の過疎化・高齢化と私たちの食生活・食感覚の画一化が関わっている。

大阪あたりでも海女をしていた/している人びとに会った。そのなかで、杏源里出身の 88

歳になるおばあさんに偶然出会った。20歳で村を出てきた彼女は、私の口から済州島や日本にいる村の人の名前を聞くたびに、華やいだ表情になる。彼女はもう一度村に行きたいが身体に自信がない、村に一人いる妹に会いたいと語った。私は杏源里に行ったときにその妹さんを訪ねていった。76歳になる妹さんは、一人で飛行機には乗れないという。昨年12月末、歴史や文化とともに朝鮮語を学ぶテキスト作成の資料収集のために、私は同僚二人と済州島行った。そしてその帰り、妹さんも一緒に飛行機に乗ることになった。またまた偶然、所用で済州島に帰省されていた京都創成大の辛先生ご夫妻も同じ閑空行きの飛行機だというので計6人の団体となり、妹さんの姉へのお土産は山のようでその他の荷物も合わせると半端ではない量となった。

ガチガチに緊張した妹さんが私の右側に座り、左側には男の子が一人座っていた。胸に一人旅を示すKALのカードを下げた、その子に話しかけてみると小学校6年生だという。冬休みなので大阪に住む外三寸のところに一人で遊びに行くそうだ。「この子一人で大阪に行くんだって」とだけ妹さんにいうと、彼女は「お母さんを探していくんだよ、チッチ」と確信したようにつぶやいた。その時男の子と妹さんの間に座った私は、まるで異なる時間と空間が交錯するなかにいるような気分になった。関西国際空港に到着すると、出口には息子とともに88歳の姉が迎えにきている。出会った瞬間、互いが互いをじっと見つめ距離をとり、「この人だろうか」と訝しげな表情を浮かべた。いきなり抱き合うわけでもなく、笑い合うわけでもなく、私が送った最近の妹の写真をしっかりと握りしめていた姉は毛糸の帽子をパッと脱ぎ「年とてるからわからんやろうが、アイゴー」と檄を飛ばす。そこで手を取り合い笑い合う二人。どこででも見かける一場面かもしれない。けれども私はその場で、植民地時代から現代まで生きられてきた済州島と大阪の歴史のある瞬間に居合わせたような感覚のなかにいた。

済州島に通いつづけるなかで、いろんな場面に立ち会う機会に出会えた。そのいずれもが大きな歴史の舞台からは些細な出来事となる。けれども私は、こうした姿から日朝の歴史を生きる人びとの生に学んでいきたい。

第246回朝鮮近現代史研究会 2007年1月14日 梶山コレクションにある朝鮮関係資料 金慶海

1. 梶山コレクション

小説家・梶山季之(1930年～1975年)は、「黒の試走車」など当時日本では最先端を行く小説や、「族譜」、「李朝残影」など朝鮮関係の小説も書きながらも、ライフワークとして朝鮮、日本、ハワイを舞台とした「積乱雲」を構想していたので、そのため朝鮮関係の資料も沢山収集していた。

その執筆を始めたころ、彼は香港で急逝した。彼が収集した全ての資料が、色々な事情があってハワイ大学図書館に寄贈された。その数は、約8,000点だろうと思われる。それには、朝鮮関係の資料もあり中には日本にはないものもある、と「読売新聞」は報じた(1979年4月2日「日本に生まれてよかったです/貴重な図書流出」)。例えば、「在外排日鮮人有力者名簿」などもあると、同大学の客員教授で作家の山崎豊子が大谷昭宏記者に語る。

私は1980年夏、その報道を信じハワイに渡った。

2. 梶山コレクションにある朝鮮関係資料

以下の資料は、University of Hawaii at Manoa Library の提供による。

私が当時確認した朝鮮関係資料は、1, 392点(?)で、その内戦前の部分は1, 052点だったと思う。費用の関係などでハワイ滞在期間が短くて、以下の24点だけをコピーして持ち帰り、今は青丘文庫に保管してある。

1. 「在外排日鮮人有力者名簿」
2. 秘「謀殺及兇徒聚衆被告事件始末大要」 明治29年9月
3. 「間島 — 清国と韓国領土問題 間島に関する協約」
4. 極秘「不逞鮮人ニ關スル事情」 大正9年5月
在上海陸軍歩兵少佐 佐藤三郎
5. 極秘「在上海不逞鮮人団之近況」 昭和7年六月
特別高等課
6. 「閔后弔落事件」
7. 「明治四十四年三月中 朝鮮各道状況」
朝鮮駐箚憲兵隊司令部
8. 「朝鮮独立運動同友クラブ事件」 昭和16年
9. 「内鮮融和問題具申書」 李完用 大正10年1月
10. 極秘「高等警察関係年表」 朝鮮総督府警務課 昭和5年1月
11. 秘「朝鮮民族運動年鑑」 1932年4月30日
上海仏祖界 大韓僑民団事務所ニ於ケル押収ノ大韓民国臨時政府及
同僑民団保管文献ニ依ル 在上海日本総領事館 警察部第2課
12. 秘「新聞紙要覧」 大正14年 朝鮮総督府 警務局
13. 秘「高等警察関係摘録」 昭和11年12月 慶南警察部
14. 極秘「学生事件裏面系統図」 昭和5年2月 朝鮮総督府警務局
15. 秘「彼我朝鮮人」 昭和4年12月 山口県
16. 「叙位叙勲内則」 明治から大正
17. 「朝鮮地図」 移住地案内、人参も含む 大正3年 作?
18. 各種地図
「日韓併合記念新地図」 明治44年1月発行
「内地朝鮮間の最短路」
その他
19. 「10・1ハワイ韓人権利闘争運動記録」 1978年1月
ハワイ韓人権利闘争委員会 ハングル
20. 「治安状況」 昭和5年10月 朝鮮独立運動概況 朝鮮総督府警務局
21. 「治安状況」(一) 昭和2年12月 警務局保安課
22. 「治安状況」(二) 同上
23. 「定平農民組合検挙概況」 昭和6年10月 朝鮮総督府警務局
24. 「事件に対する弁解」 昭和13年 太平亨 ?

中でも、「在外排日鮮人有力者名簿」や「朝鮮民族運動年鑑」などは、朝鮮の近代現代史を研究する方には必読になるのではなかろうか。

例えば、上海臨時政府が組織(1919年4月)された直後に作成されたと思われる「在外排日鮮人有力者名簿」では、58名の海外での独立運動家の名前と活動内容が記録されているが、その内訳は、米国では4名、中国では33名(その内、旧満州在住活動家は19名)、ソ連では21名が記録されている。

青丘文庫研究会のご案内

第247回朝鮮近現代史研究会

4月8日(日)午後3時～5時

「植民地期に済州島における水産加工業 映像と写真にみる日本人の活動」

河原 典史

第290回在日朝鮮人運動史研究会関西部会

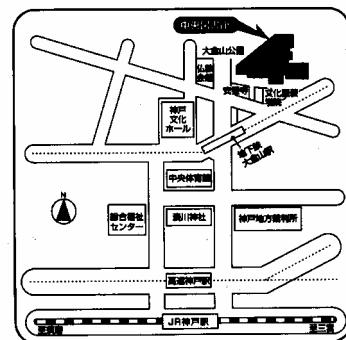
4月8日(日)午後1時～3時

「在日的経験と同胞契約」 玄 善允

会場 神戸市立中央図書館内 青丘文庫

神戸市中央区楠町7-2-1 TEL 078-371-3351

(地下鉄大倉山駅下車すぐ、JR神戸駅北10分)



【今後の研究会の予定】

5月13日(日)在日・杉本弘幸、近現代史・水野直樹。6月10日は下記講演会です。研究会は基本的に毎月第2日曜日午後1～5時に開きます。報告希望者は、飛田または水野までご連絡ください。

【月報の巻頭エッセーの予定】

5月号以降は、稻継靖之、宇野田尚哉、金誠、佐藤典子、佐野通夫、田部美智雄、張允植。よろしくお願ひします。締め切りは前月の10日です。

青丘文庫設立 35 周年 / 市立図書館移転 10 周年 記念講演会

日時：2007年6月10日(日)午後2～5時 会場：青丘文庫

講演：姜在彦さん、水野直樹さん 参加費：無料

主催：青丘文庫研究会、神戸学生青年センター

【編集後記】

- ・ 六甲近辺は桜が満開になったと思ったら、寒くなりました。花冷えです。その結構寒いのです。みなさまのところではいかがでしょうか。4月号の月報をお届けします。
 - ・ 青丘文庫は創立が1972年、市立図書館に移管されたのが1997年です。そこで上のような記念講演会を開催します。是非ご参加ください。 飛田雄一 hida@ksyc.jp